

巻 頭 言

人間発達学部学部長

内 田 芳 夫

都城キャンパスに人間発達学部・子ども教育学科（定員80名）が平成22（2010）年に設置されて5年目を迎えた。毎年、入学する学生数が増加しており学内にも活気に満ちあふれている。就職（第2期）は保育士・幼稚園教諭をはじめ、小学校教諭・地方公務員、一般企業等、昨年度に引き続き100%に近く良好な状況である。

子ども教育学科は、高度な専門性と実践的な指導力のある保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭（2013年4月に特別支援学校教員養成課程が認定された）などをはじめとした社会人を養成し、地域社会における次世代育成の充実に貢献することを目的としている。その目的を実現するために、子どもの心身、地域の学習、自然環境の学習の3分野を総合的に学ぶカリキュラムになっており探究型の教師教育を志向している。また、「連携拠点学校園制度」により、それぞれの現場での指導を往還的に行い、eポートフォリオを導入し省察的实践者としての能力が育成できるようになっている。さらに、国際化・グローバル化社会において活躍できるように、上海師範大学と学術交流協定を締結し、平成24（2012）年から毎年3人の学生が短期語学研修に参加している。

今年度、南九州大学は日本高等教育評価機構の認証評価を受けたが、子ども教育学科を含めた全学的な教育・研究・経営等の努力が実り「大学評価基準に適合していると認定する」という評価を戴いた。一方で残された課題も多く、子ども教育学科としてもSWOT分析に基づき5ヵ年計画の着実な歩みに寄与する必要がある。今や世界は激しく揺れ動き混沌とした時代の中にあって、人間の幸福は何か、人権と命、多文化共生・環境問題などの社会あるいは学校教育から要請されている多様な課題にフロンティア精神をもって子ども教育学科教職員は学生とともに新たな時代の構築に向けた取組みを始めている。

今年の干支である羊は大昔から人間生活に欠かせない動物である。『莊子』の寓話に、二人の下男がそれぞれ羊の番をしていたが、本を読んだり、さいころ遊びに夢中になっているうちに羊を逃がしてしまったという話がある。子ども教育学科の真の目的・3つのポリシーをしっかりと把握して地域や社会のニーズに応える教育・研究を進めていくことの大切さを物語る寓話である。

今回の研究紀要には、論文10編、報告4編が掲載されている。関係者の皆様方の忌憚のない評価を期待したい。

2015.2.10